

くらし

働く子育て世代

わたしのスタイル

寒河江市の刃物研削・精密部品加工業の「マイスター」は社員74人中、20人が女性で、20年以上前から女性の技能職育成に取り組んできた。男性の仕事というイメージが強い金属加工の現場で活躍している榎早苗さん(36)＝天童市＝の働き方を紹介する。



マイスター(寒河江)で働くママ

榎早苗さん(天童)はどう両立?

榎さんのある1日

午前5時	起床、朝食準備
6時	子どもたち起床
7時	自宅出発。子どもたちを実家に預ける
8時	出社
午後7時	帰宅。早く帰ってきた方が夕食を作る
9時	子どもたち就寝
11時	就寝

榎さんは幼稚園に通っている長男龍太郎君(6)と次男虎太郎君(4)、高校教員で夫の智夫さん(31)と4人暮らし。仙台市内で機械関係の専門学校を卒業後、同社に就職した。28歳の時に、当時同僚だった智夫さんと結婚した。2人の子どもを出産する前に国家資格の技能検定「ワイヤ放電加工2級」に合格し、職人として技術を高めてきた。昨年からはサブマネジャーとなり、工程管理などを任せられている。

家庭では智夫さんが仕事の状況を理解してくれることが何よりの助けだ。「夫が家事を『手伝う』という感覚ではなく、早く帰ってきた方がご飯を作り、家事は2人でこなしている。夫は『早く帰って来い』とは言わない」と笑う。同僚の理解もあり、午後6時半までに家に帰るよう心掛けています。社内には同じ立場にあるママたちも多く働いているため、子育ての悩みを相談しやすい環境にあるという。

フルタイム 理解と協力

■ 出産後、戻りやすい雰囲気

■ 2人で家事、早く帰った方がご飯作り



同僚と打ち合わせをする榎早苗さん。「グループ内のチーム力を高めていきたい」と話す

ご意見、ご感想をお待ちしております。「キラリ写真館」では、親が撮影したわが子の写真を募集しています。元気いっぱい遊ぶ様子や何かに夢中になっている姿など、とっておきの瞬間を収めた1枚を送ってください。(居住地、電話番号、親と子の年齢、親は氏名かペンネーム、子は長男・長女などの続柄を明記) ファクス023(641)3106、メールkoso.date@yamagata-np.jp、〒990-8550、山形市旅籠町2の5の12、山形新聞報道部子育て係まで。



マイスターは女性の器用さや粘り強さに着目し、指先で加工する繊細で精度の高い作業を担う人材の育成を進めてきた。最近では女性の取得が全国的にも珍しい「1級切削工具研削技能士」を輩出。現在は女性8人が技能士として活躍している。

多様なライフスタイルを許容

近では女性の取得が全国的にも珍しい「1級切削工具研削技能士」を輩出。現在は女性8人が技能士として活躍している。女性が働きやすい職場づくりにも力を入れ、女性社員の育児休業取得率は100%。1997年以降、全員が休業後に職場復帰している。育児中の女性社員が誕生した子どもを連れて会社を訪れるお披露目会や面談を実施。復帰前に上司が本人の置かれている状況を踏まえ、どのような受け入れ体制が良いか話し合う会議を設けるなど、

なりと職場復帰できるように配慮している。高井社長は「ライフスタイルは人によってさまざま。多様性を許容することが効率良く働くために必要だ」と強調する。同社は女性のみならず、65歳以上のベテラン社員の継続雇用のほか、先輩が新入社員への順応を支援する「ブラザー・シスター」制なども導入。産業医が毎月、全社員と会い、面談や声掛けをするほか、産業カウンセラーが随時相談に応じるなど、社員の心身の健康状態把握に努めている。これらの取り組みが認められ、多様な人材を活用し

て生産性向上などの成果を挙げている企業を顕彰する経済産業省の「ダイバーシティ経営企業100選」や「はばたく中小企業・小規模事業者300社」などに選ばれている。また今年3月には、子育てなどが一段落した女性のパート従業員2人を正社員に登用した。高校3年生と小学6年生の2人の子どもを持つ大沼瞳さん(41)＝寒河江市＝は入社2年半の経験が認められ、正社員になった。ドリルの再研磨を担当しており「同じ仕事をしていたのに、パートとは違う責任が出てきた」という。高井社長は「若い人たちに思いっきり働いてもらえ、そのような自由度が高い職場を目指していきたい」と話す。

自由度高い仕事場めざす

社員74人中20人が女性。マイスターでは女性の技能職育成を進めてきた